

議事要旨

第15回改革推進会議

日 時 平成23年3月4日（金）

13：15～15：00

場 所 島根県庁 本庁舎6階 講堂

○委員長 それでは、ただいまから第15回の改革推進会議を開催させていただきます。

大変年度末を控えて御多忙のところ、こうしてお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

御承知のように、この会議は県による財政健全化の取り組みにつきまして、実施状況を会議としてフォローしていくということとともに、県の財政運営のあり方について忌憚のない御意見をお伺いする、こういう役割を知事さんからちょうだいしており、こういった役割を果たしていきたいということでございます。

きょうの会議では、平成23年度の当初予算並びに施策点検部会でちょうだいしました御意見の反映状況、これにつきまして事務局の方から説明をお受けしたいと思っています。その後、委員の皆様方から御意見をちょうだいして、会議としての役割を果たしたいというところでございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、溝口知事さんにも議会最終日ということで大変お忙しい中、御臨席賜ってございます。冒頭、ごあいさつをちょうだいできればと思います。どうぞよろしく願いします。

○溝口知事 一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、皆様方、御多忙の中、お集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。皆様方には日ごろ、県財政に関しましていろんな御意見をいただいております。皆様方には、まことにありがとうございます。

本日は、先ほど議会でも承認をされたわけでございますけれども、23年度の当初予算、あるいは22年度の補正予算等の概要につきまして御説明申し上げるということ、それから去年の夏にかけて改革推進会議の施策点検部会でいろんな御意見をお聞きしたわけでございますが、それが予算の中にどういうふうに反映されているかなどを中心に御説明する予定でございます。詳細は後ほど総務部長からお話し申し上げますが、大きな骨格としましては、やはりリーマンショック以降1年半たちますが、ある程度回復してきたとはいえ、昨年の円高、あるいは欧米の金融不安等々で景気の足踏みは、まだ非常に安定をしていな

いわけでございます。そういうことで政府の方も、補正予算を通常ですと年が明けて当初予算と一緒に提出・審議するわけでありまして、12月に提出をされて、早く実行しようということございまして、私どももそういう意味で景気回復の促進、そして雇用の確保ということを大きな政策の柱としまして、補正予算、当初予算も組んだところでございます。

それから、そうした中身につきましては後ほどお話し申し上げますが、財政の健全化ということで申し上げますと、私が就任をしましたときに、放置をしておきますと大体毎年、財政の赤字が250億前後、年々生ずるということで、4年間の集中改革期間というのを設けまして、その間に職員の皆さんの理解も得ながら、給与の特例減額を実施をする、その他施策の見直しによって歳出の削減を行う、また職員の定数につきましても、私の前の澄田知事のころから実施をされておりましたけれども、そういうものを着実に推進をする。あるいは歳入につきましても、例えば税収でいいますと水森税等を継続する、あるいは資産売却を可能なものについては行う、いろんなことをやってまいりました。

そういうこともございまして、中期的な財政の健全化というのは、当初、この改革推進会議でお示しをいただいたような経路に沿って赤字の削減が進行していると、大まかなところ、思います。それも、できましたのは、私どもの施策もございまして、県民の皆さんあるいは職員の皆さんに御理解を得て進めることができたということが一つ。それからこの間、大きな景気の変動があったわけでございますが、その都度、国は大きな経済対策を迅速に打ってこられたわけでございます。そして、その対策の財源手当も地方に大きな負担がかからないように、交付税の措置でありますとか、あるいは国の補助金、交付金等を地方に配賦をする、そしてそれを中期的に対応できるように積立金を積み上げまして、それを状況に応じて地方の方の判断で取り崩していくというようなことで、県財政に、県の赤字拡大に大きな影響を与えることなく景気対策が可能になったということも、もう一つの大きな要因でございます。まずそこら辺のところをこれからお話し申し上げますが、いずれにしましても、まだまだ今年度の当初予算におきましても財政の赤字が100億前後見込まれるわけございまして、その分は県の、先ほどの国から来る補助金の積立金とは別に、県の積立金をそれと同額ぐらい取り崩すということで収支が賄われておるわけでございます。

集中改革期間4年が23年度で終了しますから、その先をどうするかというのが今後の大きな課題でございます。それにつきましては、また中期的な見直しなどをもう一回見直

す、毎年見直しておりますけれども、これにつきましては、やはり世界全体あるいは日本全体の経済の状況がどうなるかということに大きく依存しております。また、そういう中で、今、政府におかれまして中・長期的な観点から社会保障をどういうふうにしてしっかりしたものにするか、それとの関連で財政の赤字が非常に大きいわけでごさいます、税制を含めまして、国の財政をどうするかという議論を始めようとされています。いずれにしても放置ができないような状況になっておりますから、これを国としておやりにならなきゃなりませんし、地方財政が安定するためにも国の財政が安定しなきゃいかん関係にあるわけでごさいます、そういう意味で、私どもも地方財政も見ながら、国の財政の改革をやっていただくように、国に対して訴えていかなきゃいかん状況でごさいます。そうしたことを踏まえながら、また県自身がどういう財政の見通しになるのか、どういう対策が必要なのか、もう少し後になりますけれども、作成しまして、またこの改革推進会議にも説明をさせていただき、御意見等を伺いたいと思っております。これが今後の一つの大きな課題でごさいます。そういう意味で、皆様方には引き続きいろんな面でお世話になりますが、よろしく願い申し上げます、私の冒頭のごあいさつといたします。ありがとうございます。

○委員長

それでは、議事に先立ちまして新任の委員さんを御紹介させていただきます。

このたび野村委員が退任されまして、新たに岡田委員が就任をされました。

一言、岡田委員さん、ごあいさつをお願いできますでしょうか。

○委員 日本銀行松江支店の岡田でごさいます。微力ではありますが、この改革推進会議に貢献してまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○委員長 なお、本日は、高木委員、松永委員、そして小川委員さんには御欠席だということでごさいますので、申し添えたいと思います。

それでは、議事の方に入りたいと思います。

平成23年度当初予算、それから次第3にごさいます施策点検部会での御意見の反映状況、これにつきまして一括して事務局の方から説明を受けたいと思います。

それでは、よろしく願いいたします。

「平成23年度当初予算」及び「施策点検部会意見の反映状況」について説明

○委員長 ただいま23年度当初予算、それから施策点検部会での御意見に対する対応、

この両件について御説明をいただいたところでございます。

これから30分程度、少し皆さん方から御意見をお伺いしたいというふうに思います。どうぞ忌憚のない御意見をちょうだいできればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○委員 ただいまは、御丁寧な御説明をありがとうございました。また、この件につきましては、知事さんからお話がありましたように、原案どおり午前中の議会最終日に決定をされた旨、承知をしておりますが、したがって、この件について私どもがとやかく言うこともないのかなと思っています。

外を見ていましたら、いい天候になりまして、島根の先達はいい木を島根の木にされたなとつくづく実は思っています。古来から松というのは非常に大切な木でありまして、どんな季節であっても青々とした葉を茂らせているという意味からも、私は大変な時代にあるこの島根県の将来を見据えた、いい木なのかなと思っている次第です。

また、桜のつぼみもちょっと赤みが出ているかなと思っておりますが、きょうも雪が降りましたが、年末から年初にかけてのあの雪で、特に私の住む木次では、どうも桜のてっぺんの方はツグなどに花芽を食われてしまって、ことしはどうかなというふうに言われていますが、いずれにいたしましても、1カ月内外で松の樹間にある桜もいい花を咲かせてくれるのかなと思っております。

23年度予算が、まさにこの桜のように、例年のごとく見事に咲いてくれればいいかなという思いも一方ではしているところでございまして、それはそれとして、大いに期待をするところでございますが、当初から私は申し上げておりますが、県の予算というのは、その先に一体どういう県の姿を私どもは想起をすればいいのか、どうもきょうの総務部長の話聞いていますと、県の23年度当初予算のキーワードは、切れ目のない経済対策ということなのかなと思わずにはいられないんですが、じゃあ、その先には一体どういう姿があるんでしょうかということが、実は聞きたいんです、はっきりしておいてほしいと思うんです。

毎年5,000人強の人が、この島根からいなくなっています。これが23年度当初予算でどこまで歯どめがかかることになるのか、あるいはかからないのか、その見通しはどのようにお持ちなのかということ、まずお伺いをしたいということが1つです。

2つ目は、私も団塊の世代でございまして、既にもう二、三年前に、いわゆるアラ還といますか、還暦を過ぎましたけれども、こういう方々が県内にも数多くいます。そして、

パチンコへ行くのも金がかかりますから、各地のシルバー人材センターなどに登録をしながら、ぼちぼち小遣い稼ぎなどもしているという話も実は聞いています。

要は40数年間、いろんなところで人生の修行をして、今、この島根の地でなすこともなく、パチンコ屋に行ったり、シルバー人材センターでなれない仕事をして時給1,000円程度をいただく。そんなことでほっといいのかという、非常に大きな財産を今、いや、もうやっているよというふうにおっしゃっていただければいいんですけども、県なり基礎自治体である市町村の方でどのようにそこら辺を考えていらっしゃるのか。

私は県で、金の要る話じゃございませんから、音頭をとって、熟年者よ集まれという声を基礎自治体などを通じて発信をしていただければ、よし、長いこと、この島根でも随分お世話になった、そろそろ恩返しもせにゃいかん、そういうことをぜひやっていただきたいなと思うのであります。そのことを今、松の青々とした葉っぱを見ながら思った次第でございます。人生はめぐりめぐるといいますか、するものでございますから、世話になったところへはきちんと恩返しをしていくということが、私はこの島根の地であってもいいんじゃないか、そしてそういう姿をそれぞれの持ち場の中から県内外に発信をしていく、そのことを通じて私は県政の新たな発展の芽も期待できるのかなというふうに思っている次第でございますので、意のあるところをお酌み取りいただきますよう、よろしく願い申し上げます。以上です。

○委員長

それでは、最初の部分を特に知事さんの方から。

○溝口知事 当面の問題としては、景気を安定させる、それによって雇用を確保していくと、これが将来につながっていくわけでありまして。そこで、5,000人ぐらい人口が減っていると、これはそのとおりです。この問題は、私も大分、知事になりまして勉強を少ししたわけですが、2009年の数字を見ますと、大体5,100人、人口が減っているんですね。そのうち、人口の増減要因は2つあるわけです。一つはお亡くなりになる方の数が生まれる子供の数よりも多いと、自然減とこう言っていますけれども。それからもう一つは県外に進学でありますとか、あるいは就職その他の要因で転出をされる人の方が入ってこられる数よりも多いと、これは社会減と、こう言います。

それで、2009年ですと、自然減が大体5,100人のうち3,200人、社会減が1,900人です。自然減は、大体1990年代の初めぐらいに自然減という状況になります。それまではいろいろありましたけれども、生まれる子供の数の方が多くて、

自然増があったわけですが、それが自然減に変わっています。自然増減というのは結局人口構成によるわけでありまして、自然増が自然減に変わってまいりましたのは、一番大きな原因はやはり昭和30年から、1955年から1975年ぐらい、日本が高度成長した時期に大都市で大企業を中心として経済の拡大がどんどん起こる。そこで新規雇用がふえる、企業が拡大をする、給与が上がる、ポストがふえる。あるいは学校なんかもそうです。それで物すごい勢いでふえました。それによりまして人口構成が急激に高齢化していったわけでありまして、その影響が徐々に出てきておって、これは短期間では変わりません。これは今後も続くわけでありまして、むしろかつては自然増が相当、1万とか2万とかありましたが、これがゼロになり、今は自然減になって、この減が今のままですと、拡大が少しずつでありますけれども続くだろうというふうに思います。

それから、社会増減は、やはり一番大きいのは島根県と外の世界の相対的な発展度合いによるわけでありまして、日本全体の景気がよくて、大企業の設備投資が行われるというようになると、外で、県外で雇用がどんどんふえてまいりますから出る人が多くなる。最近ではむしろ国際的な競争が厳しくなる、中国、インドといった新興国が拡大をしていくということで、設備投資も外で行ったりするということが起こり始めまして、島根から県外に出る人と入ってくる人の差というのはそんなに大きくないんです。今申し上げたように大体2,000人弱ぐらいでございます。しかし、この部分は変え得ることが可能なんです。変えるためには、やはり県外に出ていく人を少なくする、それから入ってくる人、Iターンもありますけれども、Uターンということで帰ってくる人がいる。そのためには、やはり働く世代ですと雇用がふえないといけないわけでありまして、雇用をふやすということが最も大事な課題だということで、産業の振興ということに随分力を入れておるわけでありまして、県内企業、農林水産業を含め、ものづくり産業、あるいは観光産業、そういう部分が拡大をしていくということです。それも県内の需要はそんなにふえないわけでありまして、人口が減りますから。やっぱり県外の人にたくさん売るとか、あるいは県外の人観光でこちらに来るといようなことにならないと、大きな拡大というのは起こらないわけでありまして、県内の、例えばものづくり産業でいいますと、ものづくり産業の新規の製品を開発する力が高くなる、あるいは大企業等が県外で買ってくださいようないい部品をつくる、そういう企業がふえる。あるいは農林水産業もそうですね。おいしい米をつくって高く売る、そういう試みが各地でなされておって、そういうものも一定の効果を出してきております。あるいは漁業でもブランドの商品をつくる、ノドグロとか浜田のどん

ちつちとか、いろんな努力が各地でなされております。林業は、国際的な問題がございまして県産材の使用が減ってきておりましたが、国際的な木材需給の変化が起こりまして、将来はこれは拡大する余地がある、また、そのために県産材を使用する、そういうことをやっておるわけでございますし、産業振興、県外に売る、それでいいものをつくる、そういうことが一番大事でございまして、そういう点におきましては、今の予算の中にもそういう芽をつくるべく入れているわけでございます。

それから、直接Uターン、Iターンなんかで来る人がおられるわけです。漁業で働きたい、農業で働きたいという人がおられます。そういう意味で、定住の促進をするということにかなりの予算をかけております。

それから、観光につきましては、この島根におきましては古事記1300年というエポックが来年来ますし、出雲大社の大遷宮が再来年来るといったようなこと、これは代表する例でありますけれども、島根の各地に文化、歴史、そして豊かな自然が残っています。そして自然の食材もたくさんあるわけでございまして、やっぱり観光を振興するというのも一つの大きな戦略でございまして、そのために神々の国しまねという事業を行ってきておりました、23年度の予算でいいますと10億ぐらいの予算を組んでおるわけでございます。こうしたものがさらにしばらくは続いていくだろうと思っておりますし、この効果が事業が終わった後も残るような努力をしていきたいということでございます。

それからもう一つ、島根が産業振興におくれたというのは、やはり大都市でいわば戦後の経済発展が起こったわけでありまして。それは起こるには一定の理由があったわけでありましてけれども、日本の戦後の重化学工業というのは、広い用地を必要とする、多くの水を必要とする、住む土地を必要とするというようなことで、それから主に研究機関等のインテリジェンスいいですか、知的な集積もなきやいかん、企業の存在もあるというようなことで、島根などはそういう余波が届いてくるのに非常に不利な地理的な条件にあったということがあると思っております。その大きいのは2つあると思っておりますけれども、交通網の整備がおくれたと、大都市のマーケットから非常に遠かったということでありまして。それからやはり島根には平地がそんなにないわけでありまして。出雲の地には古くから平地がありますが、そこは豊かな農業の地帯でございまして。大体太平洋側の用地というのは、海岸沿いの寒村を埋め立てて戦後の重化学工業の用地を確保してきたわけでありまして。大体東京湾、それから名古屋湾、大阪湾、みんな浅瀬でございまして、あるいは瀬戸内の平地もそうでございます。そういう意味で、大事なことは、やはり用地そのものをふやすわけにはまい

りませんが、大都市とのアクセスを改善するということはできる、可能な最も大事な課題でございます、そういう意味で社会インフラを整備していく、この面につきましては、大都市から高速道路などは整備をされて、島根など地方に順番が大体回ってきたかなというようなところで、やや公共事業の削減などが行われまして、それに対しまして我々はやはり国に、国の政策を地方にあったかいものにするように強く要請をするということをやっているわけでありまして、例えば高速道路のミッシングリンクと申しておりますけれども、切れているところを早くつなぐようお願いをしますと、そういうことをやることによりまして、島根の地で産業が起こると。

それからもう一つは、産業という意味では新しい分野でインターネットの世界がどんどん拡大をして、インターネットを活用すれば全国どこでもビジネスができるような時代になっております。特に松江の地では新しいコンピューター言語を開発されて、R u b y というものがございますから、そういうソフトウェアのビジネスを拡大するというようなことがあるわけがございます。今言ったような考え方で、この地で産業を興していく、雇用をふやすということが大きな課題であります。

それからもう一つは、島根などはやや都市化が大都市よりはおくれておりますから、地域社会が残っておるわけでありまして、それが人々のあつたかい人間関係というのを維持する大きな柱と申しますか、一つの媒体と申しますか、人間の気持ちを伝え合う役割を演じておるわけでありまして、そういう意味におきまして、島根において県がもう一つ進めておりますのは、人と人とのつながり、地域社会を豊かにしていく、そういうものをベースにして、各地で自治会の活動、あるいはN P Oの活動等々がなされておりますから、社会貢献的活動とも言いますが、そういうものを広げていこう、強化していこうというのがもう一つの柱でございます、そういう意味におきまして、島根のいい点、豊かな自然でありますとか古き文化でありますとか、まじめに働く人々、そしてあつたかい地域社会というものを生かしながら、粘り強く産業の振興を行うと同時に、人々の豊かな関係、そういうものを強化していきたいと。

そういう意味では、委員さんがおっしゃったように、御高齢になられてもお元気な方は非常に多いわけがございます。そういう方々の活動がぼんと拡大をすると申しますか、そういうものに多くの人々が参加をするような仕組みなども、これはさらに強化をしていくことが可能だし、していかなければならないと、そこら辺は少し、どういうことができるのか、よく考えてみたいと思います。

大きな構図はそういうふうに私は考えているところであります。

○委員長 これから、いろんな価値観の大きな変革も求められているというようなことも言えるんかと思えますね。人口がどんどんどんどんふえて、物流が非常に活発になるということが将来的にいいかどうかという、そういった一方の価値観もあったりするわけですから、その点、当面、今、知事さんがおっしゃったような形で、やはり島根が、みんなが助け合いながら豊かに生きていけると、豊かな精神性の中で生きていけると、そういったところにぜひともいろいろ御尽力をいただきたいなということだろうと思えます。

○委員 ちょっと途中から参加しておりまして恐縮ですけれども、新しく着任した印象なども含めまして、幾つか感想を申し上げたいと思えます。

最近の島根県経済の印象なんですけれども、3つほどございまして、一つは東アジアなどの新興国の高い成長に我が国を初めとした先進国の成長が牽引をされていくと、こういう構図が昨年来続いております。こうした動きに沿いまして、直接的には輸出に関係する製造業といったところが中心になるとは思いますけれども、島根県の経済も緩やかな回復基調に戻っていくのではないかというのが現時点の基本的な想定でございます。これが1点目でございます。

2点目は、リーマンショック後、非常に厳しい経済情勢でございまして、ただ、その中でも企業の業況を見てみますと、島根県の場合は非製造業が製造業ほど余り大きな落ち込みを経験することなく、粘り強く経済を下支えしていたような印象が、これは数字であらわれておりますけれども、あります。特に昨年を見ますと、自動車や家電などの政策効果に支えられた面が大きい一方で、観光面の好調も寄与しておりまして、いわゆる内需部分がかかなり底固かったという印象がございまして。

それから3つ目に、製造業、非製造業、いずれにつきましても新しい産業を開拓して需要の創出に取り組んでいかなければいけないと、こういう機運が県内で着実に高まっているのではないかとといったような印象を受けております。

こうした流れの中で、当面の島根県の経済の課題ということについてはいろいろあると思えますけれども、私なりに印象深く思っておりますのは、例えばでございますけれども、東アジアが世界経済を牽引していく原動力になっているということございまして、そういった意味では、東アジアにこの島根県というのは非常に近いという地理的な特性があると思えます。輸出もそうですし観光面の集客といったようなものもそうですし、それだけではないと思えます。新しい物の流れ、人の流れというのをどうやってつくり出していく

かということを考えながら、新しい需要を取り込んでいくということが1つ目の課題になるかと思います。

それから2つ目には、先ほど申しましたけれども、もちろん全国にはもっと人口の多いところがたくさんあるわけでありましてけれども、島根県は内需が意外に底固いというところがあるように思っております。この底固い内需というのは、なるべくできるだけ地域で応えていくと、よく通っている言葉でいきますと地産地消ということになるかもしれませんが、できるだけ内需を外部に漏らさないということで、しっかりと取り込んでいくということが課題になるのかなというふうに思っています。

それから3つ目は、先ほど来御説明の中にもございましたけれども、地域の外からやはり経済的な利益というものを導入していく、確保していくと。よく外貨の獲得と言われておりますけれども、そういったことが大切で、そういった意味で、やはり観光面の取り組みなどは、その観光によって需要をふやすという直接の効果もありますし、それによって島根県の知名度を上げて、いろんな物流、人の流れにプラスに生かしていくといったような意味でも大きな課題になっていくのかなというふうに思っています。

そういったことを考えますと、この23年度の予算案というのは、全体として長期的に持続可能な財政構造の構築を図りつつ、島根県経済の成長性の確保を図っていく上でもいろんな論点に目配りがされているのではないかなという印象を持っております。

将来的にやはり成長力を高めて、言ってみれば実入りをふやしていくということがやはり重要であると思います。そういったときに、全国でもいろんな取り組みがされているわけですが、やはり全く新しいところに飛び込んでいくということももちろんあり得ると思いますけれども、現実的にはやはり島根県が既にもともと持っている強みを生かしてそういうことを進めていくということも一つのやり方かなというふうに思っております。これも先ほど来お話に出ていますけれども、既に産業の一定の集積のあるところでは、そういった産業の集積を生かして、その技術を応用できる新しい分野がこの新たな環境変化の中でないかどうか探していくとか、あるいは最近、資源高が話題になっておりますけれども、資源の需要が世界的に高まっているということがそこに反映されているように思いますけれども、逆に言いますと、これは、資源高そのものは、それはコストアップにももちろんつながり得るわけですが、世界の資源の価格が上がっていくということは、実は島根県がもともと持っている天然資源の希少性というのも、これもまた上がっていくという可能性もございまして、目に見えるものではもちろん海とか森とか、そうい

ったものがあるわけでございますけれども、ほかにも新しい環境の中で、実は大変な資源なのであるというものはあり得るところですし、また、そういったものを、よく定時定量と言われますけれども、やはり資源を定時定量で生かしていけるような仕組みをしっかりとつくっていくということが安定的に島根県の経済を前向きに循環させていく鍵になっていくのかなというふうに思っております。

そういった意味で、既にいろんな取り組みがこの政策の中に反映されていると思っておりますけれども、先行き、そういった関係で、成長力の確保という意味で何か考えておられる論点などがありましたら、教えていただくとありがたいと思っております。以上でございます。

○委員長 個別にということじゃなくて、少し御意見を、もしちょうだいできるものがあればいただいた後、まとめて、また少し知事さんなり部長さんなりにお話しいただくということにしたいと思っております。

○委員 知事が就任されてから、この改革推進会議に参加させていただき、知事や県職員の皆様が行政改革や農業についても本当にきめ細やかに対応して下さっていることを近くで拝見することができました。

農家の一人として、農業者としてまずはお礼申し上げます。

きょうの新聞に載っていた、松江でお茶をつくっている農家の組合の皆さんが将来ブランド化に向けて頑張るぞという記事を見て、私もとてもうれしかったです。

前向きにみんなで頑張っていこうという姿勢に私も勇気を頂きましたし、頑張らんといけんなど思いました。

最近、農林水産省の方で、農山漁村の6次産業化に向けて、新しい事業計画を立てられ、それに関わる認定申請が始まったと聞きました。

それは「地域資源」を活用して、儲かる農林水産業を実現し、農山漁村の雇用確保と所得向上を目指す為の支援だそうです。

「6次産業化」という新しい風を受けて、農家や女性グループ、農業法人などが、私たちの住むふるさとの良さを引き出すことで、地域が活性化することを願っています。

女性たちのパワーをもっともっと地域で生かす為にも、ご助言をよろしくお願ひします。

○委員 このたびの予算、いろいろとみんなの委員の思い、そして各地域の実態に即した施策をいろいろ打っていただき喜んでいきます。特に交通体系については島根県独自のものを打ち出していただき、ありがとうございました。

私は、先ほど委員さんの方から底がたい内需が必要だという声も出ていましたし、団塊の人たちをどう生かしていくのかということも出ておりました。その底がたい内需について、ちょっと一つ、常日ごろ考えていることなんですけれども、新たな産業を興すことも必要なんですけれども、今、都会の方では、団塊の世代が退職されて、ものすごい高齢化率が上がるわけですよ、今後ね。2055年頃のイメージで50%ぐらい、首都圏域は上がっていくわけです。ところが島根は今、全国一の高齢県ですが、10%ぐらいしか上がらないんです。そうすると、島根は今の状態を緩やかに維持していく状態。都会の方は、があんと高齢化率が上がるわけです。その中で、私は都会で働いた島根県出身の人たちが、やっぱり島根に対して思いを持っていらっしゃると思うんですね。都会は今、とても地価が高くて十分満足できるだけの老人ホームをつくることはできない状態です。この島根の人情とか自然とか温かさを生かして、都会に出ていった方たちを呼び戻す、それで、この方たちは一流企業とかにいた人もたくさんいらっしゃいますから、給与ベースが島根県内の人とは全然違うんですよ。そうすると年金も、今、島根で現役でやっている人に近いような年金をもらっている人がたくさんいるわけですね。この方たちが島根にすばらしいところがあれば、親もいるし親戚もあるし、帰ってみようかなという思いになってくれるのではないかなと思います。

そういう意味では、観光とか産業とかというのも大事なんですけれども、ある程度お金を持っている人たちを呼び戻すという考え方もいいのかなと思います。県人会とかへ出かけて行って、きっちりとセールスをして、島根のアピールをしていくことが大事だと思います。それをするとすれば、結局ハードも建てなきゃいけない、人も雇用しなきゃならない、そして介護に必要なもろもろのものを、食品を初め介護用品などの消費もたくさん出てくるというようなことで、結構島根の未来は明るいのかなとある意味期待もしております。むしろ日本のこれから高齢者が心豊かに安心して住める地域になるのではないかなというふうに思っています。この人たちは結構所得が高いんだよ、消費もしてくれるんだよというようなことを認識してもいいのかなと思っています。

そのときに、今、こっちでできている老人ホーム的なものだけぼんぼんと建てるんじゃなくて、やっぱり趣味も豊かですし、生活レベルも高かったですから、そういう方が納得して、満足して帰ってきてくれるようなものをつくらないとだめだと思います。たとえそういうものをつくっても、都会は入居するのに一時金何千万とか取られる。島根は高い一時金を取らなくても済みますから、多分すごく喜んでいただけるのではないかなというふう

に思っています。

それから、団塊世代の退職なさった方たちですけれども、本当はこの方たちが今まで働きながら退職後の人生をイメージし、自分は時間がたっぷりできたなら、やっぱり人に喜んでもらえる、地域に役に立つ、何らかの形で社会貢献できるような人生を送りたいなあという認識を持ってもらおうと一番よかったんですが、そこまで行ってないなら、これから退職後の人生をどう生かして、人に喜んでもらえる、社会貢献できるものにするかというような意識を持ってもらおうような取り組みが必要なのかなと思っています。うちの場合、反対にそんなことしなくても、みずから出てきてくれて、退職後の人生は地域のためにやりますとって、本当に頭が下がるぐらいボランティアな活動を、うちの活動の中でしてくださる男性が何人かいらっしゃるんです。平田にはそういう人がいるんですよ。だから、持っていきようでどうにでもなるのかなという気がしてしまっていて、この人たちの力を大いに生かす。特にパソコンが使えない人はいっぱいいますので、そういうパソコンが達者だった人がボランティアでパソコン人材を、教室の先生をする。いろんなやり方はあると思うので、人材を生かしていけたらいいのかなと。だから、意識改革、社会参加というあたりで、この方たちを活用していく県の取り組みは大事なのではないかと思います。

○委員 先ほど人口減の話がございましたが、社会減が1,900人、自然減3,200人って、社会減というのが自然減になってくるわけですけど、これに無理に抵抗するということは、今できますかといって私は聞きたいんですよ。これはちょっと無理だと思うんですよ、今はね、これをとめるというのは。だけど、人口が減ったって心配はないというふうに私は思って、私の信念ですけど、人口が減っただけ、今、県が一生懸命で取り組んでおられる、例えば観光ですね、観光立県。5,000人減っても何十万人ここへ呼び込めば、島根の海産物、農産物は十分に消費できますし、県産品のいろいろな加工品、食材、お菓子にしてもお酒にしても、すべてのものが消費していけるんですよ。だから、無理なものに抵抗する力があるなら、もっと観光とか、それから先ほどあった、そういう人を温かく迎えるようにして、島根に幸い残された古きよき文化とか心とか、そういうものでおもてなしをすれば、ヨーロッパ、特にスイスとかデンマークとか、そういうところがございますね、そういうところはたくさん人が来るんですよ。それで今、新興国なんかはやっぱり日本の文化とかきめ細やかさ、本物がある、そういうものにあこがれておりますので、どんどんどんどんやるということが私は大事だと思いますし、それからもう一つは、そういう中で先ほど知事さんがおっしゃいました、徐々に社会インフラを整備すれば、交

通網はあります。

それと、一番大事なのは、時代はもう I T というか、通信も含めた I C T の基盤になっていますので、例えば北アフリカの政変なんて、だれが考えたかという、考えてもないことが起こってくるわけでございます。これも基盤はもう、いわゆる I T という時代が変わっているということで、瞬時に情報が交流するという。本当に極端に言うと、相撲の八百長まで情報産業でやっておりますし、今、大学の試験のカンニングまでこういうふうになっています。すべてが今までだれが想像したことが、まさかということがどんどん起きているというのが、別にまさかでもなくて、社会がもう完全にそういう I C T の基盤の中で動いているということですので、これを生かせば、島根はアクセスが悪いとか、これは徐々に改善しなきゃならないですけど、じゃなくて、もっともっと販売網というものがある。いいものをつくっても、たくさんいいものは世の中にあるんですが、販売網がないものは売れないという、こういうことを忘れているということで、いいものづくりはされるんですけど、販売網のことは一つも考えてないんですよ。

やっぱり今も都会型の大型店が出たり、それから大型の販売網を持った商店が出たりするんですけど、これはまた再び返ってきているんですよ。小型化であったり、百貨店はだめでコンビニがなぜいいかという、やっぱりそこにサービスがあったり店舗の広がりがあったりスピードがあったり小型化だったり人とのつながり、一番言われるのは、I T 時代というのは人とのつながりなんですね。そういうものがあれば、島根で企業が十分なっていけるというふうに思っています。ですから、もう人口減はあんまり、そういう流れの中に逆らわずに、むしろ呼び込もうということが大事だと思います。

それと、おのおの県民なり県の企業が、県に頼らず、県予算に頼らず、とにかくみずからがやっていくという基盤がないと、すぐ県の予算に補正予算を組んでくれ、あれしてくれという、何かあったら県も困るでしょうがって、だからこういうことに予算をつけてくださいなんていうことを繰り返しておると、経済なんて発展しないというふうに私は思っております。以上でございます。

○委員長 そのほかに何か御意見ございましたら。いずれも難しい問題でありますし、これから時代、先をどう読むかというようなことにかかわって、それぞれ、いや、今の御意見に対してはこうだという明快な答えというのはなかなか恐らくないんだろうと思います。

もしなければ、きょうちょうだいした意見全般について、知事さんあるいは部長さんの方から少し御意見をいただきまして終わりにしたいと思うんですが。

○溝口知事 委員さんの農業の話、6次産業化、そこにおける女性の役割、私どもも同じような考え方を持っていますので、さらにどういう具体的なことができるか、よく検討していきたいと思います。

それから、委員さんの団塊世代で外にいる人たち、私もずっと同じような考えを持っています、どうやったら帰ってきていただけるのか、あるいはそのためにはどういう条件が必要かというのはずっとやっておりますが、まだこうしたらいいというところまで到達していないんですね。多分そういう高齢化社会では島根は先進県ですし、それから豊かな自然だとか人が住みやすい場所ですから、これをやはり生かしていくというのは、これからの大きな課題だと思います。そういう意味でUターン、Iターン、高齢者の方の、団塊世代などが移り住むようにするにはどうしたらいいか、よく勉強していきたいと思っています。

それから、委員さんのお話もそのとおりでありまして、結局観光も外の人に来ていただく、島根の産品を外の人に買ってもらうと、こういうことにつながるわけでありまして、おっしゃるように島根にはそうした、いわゆる地域資源というものがいろんなところにありますから、自然、文化、歴史、そして豊かな地域社会、そういうものを活用しながら、島根が豊かに暮らせるような施策をどういうふうに展開していくか。結局はいろいろやってみますと、具体的にどういうことが可能なのか、何をすればいいのかというところに行くわけでございまして、そこは試行錯誤しなきゃいけませんし、皆さん方の御意見、サジェスチョンなどをよくお聞きしながら具体化を進めてまいりたいと思いますので、よろしく、またお知恵をおかしいただければと思います。以上でございます。

○委員長 そういえば、一つ言うのを忘れていたということはないでしょうか、皆さん。よろしいですか。せっかくの機会ですから。

○委員 ちょっと振り返るといふか、考えてみたら本年度最後だなどと思ひまして、政治家としての知事が、今度、知事選もございまして、改革推進会議としての22年度の区切りだと思ひますので、知事の方からお話をといふか、感想をいただければと思ひますが、改革推進会議ということに対してですね。

○委員長 きょうの議題じゃなくて。

○委員 はい。予算に対しても、これは本当に骨格なのか本格なのかといふ話もしたかったんですが、それはちょっと置いておきたいといふふうになります。

○委員長 改革推進会議を現在の知事さんが立ち上げられて、それに対する感想を聞きた

いと、こういうことですか。

○委員 そうですね、一応今度、選挙があるわけですからということです。

○委員長 選挙はとりあえずいいですけども。特に何か、もしなければ、改革推進会議に対する印象ということで。

○溝口知事 改革推進会議と申しますか、財政健全化の話は冒頭申し上げたようなことでございまして、推進会議で財政健全化の方法、道筋などの大枠を御議論いただいて、私どもはある程度それに沿って進めることができた。そのためには、いろんな方の御理解を得ながらできた、こういうことでありまして、そして、経済の変動等に対しましては、やはり国が地方にある程度の対策を打ったから、地方経済、あるいは地方の財政が大きくプレッシャーを受けることなくできた。県内の努力、それから国の政策、両々相まってそんなふうに進んできているんじゃないかと。先行きを見ますと、国全体の政策が一体どうなるのか、非常に不透明なところがございまして。そういう問題を考えながら、23年度で集中改革期間が終わって、24年度以降どうするかということになりますから、今後、ことしの年末にかけまして、また改革推進会議にも私どもの考え、あるいは見通しなどもお示ししながら、ぜひ御議論をいただいて、いい方向に導いていただくようお願いをしたいということでございます。

○委員長 先ほどちょっとありましたが、財政改革の道筋ということでこれが立ち上がって以来、普通はあそこで答申をしますと、大体それで終わっちゃうんですけども、こうして丁寧に1年に2回会議を開いていただいて、我々の意見を行政に反映させていただいたということでは非常にありがたかったかなというふうに、私自身はそういう印象を持ってございます。

それでは、全体で知事さんの御感想等もお伺いしようというふうに思っておったんですが、先ほど感想を交えていろいろ回答といったものも含めてちょうだいいたしましたので、きょうの会議はこれで終了したいと思います。